

市場
豊洲
地下水

ゼネコン調査分に疑惑

1~8回目

有害物質が揮発・沈殿後に採水・調査か

共産党都議団が指摘

日本共産党都議団は3月8日の都議会本会議での討論で、豊洲新市場予定地で行われた地下水モニタリング(全9回)のうち、日水コンとゼネコンが携わった1~8回の採水方法に疑惑が浮かび上がったとして、真相究明を行うべきだと主張しました。

調査方法と結果などの違い		
調査回	9回目	1~8回目
調査会社	入札で決めた会社(湘南分析センター)	豊洲の汚染対策をしたゼネコンなどが関与した会社
有害物質の検出状況	検出 79倍のベンゼンをはじめ72箇所では基準をこえたベンゼン、シアン、ヒ素を検出	ほとんど不検出 (8回目に3箇所から基準をこすベンゼン、ヒ素を検出)
排水の調査時間	当日中に採水	1~2日置き採水

4日の都議会豊洲市場移転問題特別委員会では、地下水モニタリングに携わった企業の参考人に質疑。湘南分析センターが行った9回目の調査では、試料の採水に先立って停滞水を排水する作業(パージ)後、当日中に採水したのに対し、ゼネコン等が関与した1~8回目の調査では、パージから採水まで1~2日おいていたことが明らかになりました(上表参照)。

9回目の結果では、8回目までの結果と大きく異なりました。共産党都議団は討論で、「ベンゼンなどは揮発しやすく、ヒ素などは沈殿しやすいため、(パージ後から)あまり時間をおかずに採水することが必要」だと指摘。「1~8回目の採水は(パージ後から)明らかに時間をかけ過ぎであり、数値に影響があったのではないかと疑いが生じる」と述べました。

さらに、そもそも、土壌汚染対策工事を行ったゼネコンが、その検証のため地下水モニタリングを行うことは「客観性が保てるかどうか、はなはだ疑問だ」と批判。9回目は都によるシアンの分析でも同様の結果が出ており、「暫定値」として扱うことは不可解だと指摘し、都、都議会として、1~8回目の地下水モニタリングを厳しく検証し、真相究明すべきだと主張しました。

食の安全・安心第一に 移転の中止含め抜本的見直しを

地下水モニタリング自体の真相究明が必要です。日本共産党は百条委員会などでの説明に全力をあげます。



都議会議員(江東区選出)

あぜがみ・みわこ

あぜ上三和子

日本共産党

東京民報

ご意見・ご要望は 03-3370-0311、FAX 03-3370-0471
2017年3月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝 1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可